

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170201412		
法人名	はまなす介護センター株式会社		
事業所名	はまなす介護センター光星		
所在地	札幌市東区北13条東13丁目2-3		
自己評価作成日	令和5年8月5日	評価結果市町村受理日	令和5年10月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当グループホームは「幸せになる」という理念のもと、入居者様・職員が共に幸せな時間を過ごせるよう、生活のお手伝いをさせて頂いています。建物の立地も住宅地の中にあり、地下鉄駅にも近くお車をお持ちでない方も来所しやすいと思います。今年も昨年同様コロナの影響で大きなイベントは中止しましたが、ホーム内行事の企画、散歩等の外気浴を行い、できる事から少しずつ取り組み、楽しみのある生活になるよう努めています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyosyoCd=0170201412-00&ServiceCd=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401
訪問調査日	令和5年9月13日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は最寄りの地下鉄駅から至近距離にあり、家族や友人が訪れやすい住宅街に位置している。鉄筋コンクリート造り4階建ての2、3、4階に各ユニット9名の利用者が、職員の支援を受けて安心安全な生活を続けている。コロナ禍により地域交流を含めた外出や面会が自粛を余儀なくされているが、職員は利用者の声に耳を傾け、不安の無い落ち着いた生活の中で穏やかに過ごすことができるよう配り、心配りに努めている。食事は利用者に合わせて味付けに努めており、完食して「美味しかったよ。ご馳走さま。」の声が挙がっている。家族宛の月1回の手紙は利用者の様子や家族への気遣い溢れる文面となっている。利用者から「家族に会いたい」との要望には電話を取り次ぎ、アルバムと一緒に見て大切な人々を忘れないよう思い出を共有している。職員は感染症状況を見極めながら、徐々に地域との交流や外出、面会がコロナ禍以前に戻るよう模索を続けている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所、各ユニット食堂に、事業所理念が掲示し常に確認し実践につなげている	運営理念を事業所理念とし、サービス提供時やカンファレンスで理念に沿った支援ができているかを確認している。管理者は、その時々で職員に理念の重要性を説いている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	外部を呼ぶ大きな行事は、まだ再会できておらず、日常的な交流は出来ていない	回覧板を介して地域情報が得られ、資源回収に協力している。運営推進会議では、地域の相談事も事案として取り上げている。感染症状況を見極めながら、地域との交流実現に向けて検討している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	書面会議にて理解して頂けるような議題をとりいれ、認知症の方の理解が得られるようにしている		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	7月から会議が再開されるので、書面より直接意見を聞いたり、話し合いが行えよりサービス向上に活かしている	書面での会議が続いていたが、7月から対面になり各推進委員の参加を得て開催している。利用者の日常報告と感染症等の資料を基に質疑応答や意見、感想などが挙がっており、運営の質向上に生かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当とは、必要に応じて連絡を取り、相談をし協力関係を築いている	窓口担当者とは代表者が主体的に関わり、円滑な運営に生かしている。管理者は、コロナ関連に対する保健所との連携、ケースワーカーや介護保険認定調査員の来訪時は情報を交換している。集団指導や運営推進委員である地域包括職員からの情報、助言等を業務に取り入れている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	カンファレンスや委員会等で、定期的に不適切なケアや身体拘束が無いが、確認し合っている	身体拘束廃止への取り組みは、指針やマニュアルに沿って定期的な適正化委員会や研修会で職員の共通理解や意識統一を図っている。禁止の対象となる11項目をチェックシートで確認するなど、意識を持って利用者向き合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	委員会にて、虐待にあたる行為を理解している。また、日々のケアの中で、不適切なケアが行われていないか確認している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は理解しているが職員全員が理解しているとは言いがたい		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	見学、面談の段階で不安や疑問点を伺い、理解を得られるよう対応している		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱があり、自由に意見要望を伺えるようにはしているが、ほとんど入ってはいない。電話等で伺う方が多く、それらを運営に活かしている	利用者や家族からの運営に関する意見は耳を傾ける姿勢にあり、出された時には職員間で解決に向けて協議している。家族から要望があったエアコンの設置が実現している。毎月お便りで利用者の様子を伝えている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者は職員の意見を聞く機会を作っていない	管理者は職員の心身の状態把握に努め、必要時は面談を行い働きやすい環境作りに取り組んでいる。代表者と職員が話し合う機会は取れていないが、管理者からは余裕ある人材確保を要請している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員数も少しずつ増えてきているので、前回よりは環境が整ってきている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人外の研修を受ける機会は無い為、働きながらトレーニングをしている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	札幌市や区の会議もまだ再会していない為、同業者と交流する機会がない		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約前に聞き取りを行い、ご家族、本人が安心して暮らしていけるよう関係づくりに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを開始する前に、不安や要望を伺い、出来ること出来ない事をしっかりと伝え、信頼して頂ける様努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の生活を伺い、入居後にまず何を必要としているかを見極め、サービスに取り入れている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事を一緒に行い、共に助け合って暮らしている		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ユニットには上がれないが窓辺や、事務室で時間を決めて、面会対応を行っている。また、ご家族とはこまめに連絡を取り合い、共に本人を支えていく関係を築いている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前の様な自由な外出は出来ていない。馴染みの場所には行けていない。ご家族とは関係が途切れないよう支援している	コロナ禍により場所や人の関係継続は自粛状態の中、家族とは工夫を凝らした面会方式を取り、また、テレビ電話や手紙の取り次ぎ、アルバムを一緒に見るなど回想法を採り入れ、馴染みの関係性を大切にしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、職員が間に入り、楽しく交流をして頂けるよう努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	電話連絡を継続的にして、相談を聞き必要に応じて支援している		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中から希望をくみ取り、ご家族の協力を得ながら、本人本位になるようマネジメントしている	利用者により意思の疎通がスムーズにできる、少し困難など色々だが、日頃から利用者としっかり向き合い、ふとした言葉や動きの中からも意向の汲み取りに努めている。入居前の情報や家族から都度の情報、介護記録等も判断の参考になっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴や暮らし方などは、ご家族や関係機関と連携し把握するよう努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活リズム、心身状態・残存能力の現状の把握に努め、その人らしい暮らしができるよう支援している		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要の関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族・主治医と職員間で、本人に必要な支援・課題を話し合い、今の状態に必要な支援を介護計画に活かしている	ケアプランの更新時や利用者の状態変化時は、現状に見合った支援目標を新たに策定している。利用者や家族の意向、医療従事者の意見を踏まえ、職員全員の意見を反映した内容になっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子・ケアの実践状況を個別に記録し、職員間で情報を共有し、介護計画の見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・家族と十分に話し合い、必要なニーズに対応し、柔軟な支援ができるよう努めている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナウイルス感染防止につき地域資源は把握しているものの、活用しているとは言えない		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望を聞き、医療関係者との連携を密にし、適切な医療が受けられるよう支援している	内科や皮膚科、歯科の訪問診療と看護職員による健康チェックなど、医療連携体制を入居時に説明している。専門科への外来受診は基本的に家族対応だが、困難な時は職員が同行し、いずれも利用者の健康状態は関係者の共有としている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の些細な変化や気づきがあれば看護師に相談し、適切な医療・看護が受けられるよう支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際は、必要な情報提供を行い、早期退院の支援をおこなっている。また、日頃より、病院関係者との関係作りを行い、スムーズに情報支援ができるよう努めている		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居段階で重度化、終末期の取り組み等の説明を行っている。身体状況の変化に応じ、主治医、家族と終末期を支えるための話し合いを行っている	入居時に重度化や終末期の対応は指針で説明し、利用者や家族の終末期への意向確認は随時行われている。重篤時は利用者が望む最期の支援に臨んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	カンファで利用者の急変や事故時の対応を定期的に確認し、実践につなげられるよう取り組んでいる		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害を想定した避難訓練を行っている。備蓄品の確認を行い、不意の災害時に備えている	年2回、地震を含む火災避難訓練を日中・夜間想定で行っている。職員が等しく訓練に参加できる仕組みを作り、危機管理意識を高めている。災害時の備蓄品は準備しているが、暖房器具は代表者に購入を要請している。	集中豪雨などの水害時は、建物内にとどまるなど自然災害時の対処法を話し合っている。加えて入浴時などケア場面での対応、暖房器具の備え等の検討に期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	病気であっても人生の先輩という事を忘れず人格を尊重し、自尊心が保てる対応を心がけている	研修で適切な接遇のあり方を学び、実践に努めている。言葉遣いなど気になるときは、管理者が正しく理解できるよう説明しており、職員の共通認識に繋げている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が思いを伝えやすくしたり、自己決定ができるような声掛けをしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日の過ごし方の希望は聞いていないが、本人のペースで生活できるよう、くみ取って生活を支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	いつもキレイで、ご本人らしい身だしなみができるように支援している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	もうすぐ食事の時間という事がわかり、食事が楽しみになるようテーブル拭きや、ランチマットなどの準備を行っている。茶碗拭きなども一緒に行うことで楽しく食事ができている	献立と食材は業者から届いているが、利用者の好みに合う味付けに努めている。行事の特別食、誕生日はリクエストメニュー、敬老会は好物の出前寿司、おやつはアイスクリームやゼリー等を用意し、利用者から好評を得ている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	十分な食事量、水分量が摂取できるよう、体調や能力に応じて支援している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	できる所はご自分でブラッシングなど行い、みがき直し等不十分な場合はお手伝いし、毎食後口腔ケアを実施している		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的に排泄の状態をモニタリングし、必要最低限のオムツやパットの使用になるよう、ご本人の力を見極め時間毎にトイレで排泄ができるよう支援している	利用者の排泄状況を見極め、状況により衛生用品を活用しながらトイレでの排泄を基本として支援している。自立排泄への見守り、2人介助、ポータブルトイレの使用、ベッド上での支援と様々だが、羞恥心に配慮して行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人ひとりの便秘傾向を把握し、排便コントロールを行いながら予防できるよう、体操等も取り入れている		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的には、入浴時間や日数の間隔はある程度決めていたが、タイミングなど本人からの希望があれば考慮し支援している	入浴は一人ひとり湯を張り替え、週2回以上を基本に午前・午後に支援している。同性介助や湯加減などの要望に応えられない部分を支援し、湯船に入っているときはドアの外に出て見守りを行っている。入浴後の飲料水を用意して水分補給をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活リズムを把握し、状況に応じて休息が取れ、また、夜間も安心して眠れるような環境づくりをしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の目的や内容などの理解に努め、服薬支援をしている。また、体調や症状の変化は必ず看護師、主治医に報告し、適切な服薬ができるよう支援している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活の中で一人ひとりの能力に合わせ、家事の手伝いやレクなど、張りのある生活ができるよう支援している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気温を見ながら近所への散歩などに出かけているが、コロナ禍により外出はほとんどできていない	外出は周辺の散歩、外来受診時、換気時に外の空気をを感じる程度にとどめている。感染症対策の一環としているが、職員は今後に向けて外出企画を模索している。外出に代えて室内レクリエーションの充実に努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭トラブル防止のため、金庫で管理し、利用者個人では所持していない		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居後も、交友関係など大切な人との関係が、継続できるよう電話を掛けたり、手紙のやり取りができるよう支援している		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	不快や混乱するような刺激は避け、家庭のような生活感があり、季節ごとに装飾なども施し、心地よい空間づくりに努めている	利用者が気持ちよく過ごせるよう温湿度や採光、音の調節、清掃等に配慮があり、心地良い生活空間になっている。折り紙などで作成した季節飾りを掲示しているリビングで利用者はテレビを見たり、新聞を広げ、また、お喋りをするなど自分のペースで楽しんでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂での席は、利用者同士の気の合う、合わないなど考慮し、居心地よく過ごせる環境づくりをしている		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来る限り、自宅で使い慣れた物や好きな物を居室に置いていただいたり、安心して過ごせるよう工夫している	洗面台を設置している居室には、整理箱などの生活用品や、仏壇、レクでの作品、手芸セットなどが身近にあり、利用者にとって安心できる居場所になっている。動線確保のため、模様替えを行うときもある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	わかりやすい掲示物などを利用し、自立した生活が送りやすい配慮をしている		